



ちょっとそこまで ~お散歩日和 (植物編)~



ガザニア

5号棟東の駐車場わきに、ガザニアの黄色い花が咲いています。まるで勲章のような花は豊富な花色を持ち、日が当たると開き、日が落ちた後に閉じる性質を持っています。そのため、曇りの日には開かないこともあります。和名は形状そのままにクンショウギクと言います。英語名は「Treasure flower (宝の花)」ですので、その華やかさを形容して生まれた名前だと思います。



春から秋にかけて、鮮やかできらびやか、そして豪華な花を咲かせ続けますので、無精な人には打ってつけの花と言えるでしょう。

ガザニアの名前は、15世紀のギリシャ人、セオドロス・ガザに由来しています。彼は、ギリシャの植物に関する古典書物やアリストテレスの著作物をラテン語に翻訳した文学者だそうですが、詳細は不明です。セオドロスはギリシャ表記で、英語だとテオドロスとなっています。



葉の形状は切れ込みのある羽状もしくはへら状で、茎がほとんど伸びないため葉が茂るのは地際あたりです。葉色は品種により違い、灰緑や銀を帯びたもの、光沢の美しいものなどがあります。

南アフリカが原産なので高温や乾燥には強い反面、多湿を嫌います。梅雨がある日本では、夏を迎える前に腐ってしまうことも珍しくありません。シルバーリーフと呼ばれる銀葉のガザニアは、とくに多湿が苦手です。耐寒性はあまり強くありませんが、徐々に慣らすことで関東以西であれば戸外でも冬越しできます。単独での栽培やほかの花との寄せ植え以外にも、品種によってはグランドカバーにできる花です。

ただ最近では品種改良が進み、冬越しも可能な宿根タイプも増えてきており、大変育てやすく、しかも手間いらずの重宝されやすい花と言えるでしょう。

ところで、ガザニアに大変よく似た花としてガーベラが挙げられます。もちろん花びらの先端がとがっていけばすぐに見分けがつかますが、丸いタイプでは区別しづらいと思います。この両者の見分け方は、葉の形が柔らかく薄めで広がっているものがガーベラで、細長く、固めでしっかりして濃い緑の葉を持つものをガザニアと覚えておくと良いと思います。

同様にマーガレットも似ていますが、これもまた葉の形状が異なります。コスモスの葉に似て、羽のような形で控えめに茂ります。あと、全体的な草丈も他の2種と比較すると大きくなります。開花時期も春先に限定されるので、あまり間違えることはありません。いずれにしても葉の違いが大きなポイントとなります。



ガーベラ



4号棟前のマーガレット